



三重県

三重の木を使った公共建築

～ 将来を見すえた木材の利用と効果 ～

青山高原山頂小屋



伊賀の組紐をイメージした
県産材トラス梁

旧休憩所は、公園の総合案内や山開き・マラソンイベントなどに利用されてきましたが、老朽化に伴い建替えることとなり、地元に親しまれた「青山高原山頂小屋」という名称でリニューアルしました。木材を多用しながらも施設維持管理に考慮し、外部木部には外部用木材保護塗料を塗布し、軒を深く出し軒先は屋根材で木材を巻き込むデザインを採用することで雨仕舞いに配慮しました。



建方

地組したトラスをクレーンで荷上げ中



トラスを繋ぎ梁・金物と接合

木材を多用し
温かみのある室内に

施設名サイン

青山高原山頂小屋



工事概要

場 所: 伊賀市勝地1854-14

用 途: 休憩所

延べ面積: 65.60㎡

工事期間: 令和7年6月26日～令和7年12月22日

県有施設にも 木造建築物が増えています。

三重県産材の利用拡大や、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、県では建築物での木材利用を進めており、令和7年度には新たに2つの木造建築物が完成しました。

入口では木製ルーバー
がお出迎え



四日市農芸高等学校 屋外トイレ棟

高校の体育館に近接する屋外トイレの老朽化等に伴い、建替えることとなりました。



木工事



地盤改良工事

屋根裏や天井にも木材を多用し、
おしゃれで落ち着いた雰囲気

工事概要

場 所: 四日市市河原田町2847

用 途: 学校(トイレ)

延べ面積: 44.10㎡(屋外トイレ棟)

工事期間: 令和7年6月5日～令和8年1月15日

水回りのため、仕上材としての木材利用は天井等の高い位置を中心としていますが、高窓からの採光のため、木材利用を引き立てています。

